



# 交通権学会ニューズレター トランスポート 21

第 25 号 2006 年 8 月 25 日



## 概要

- ① 2006 年度の研究会・総会がおこなわれました。本文 I, II に速報を掲載します。
- ② 社会貢献賞を募集しています。自薦・他薦を問いませんので、情報をお寄せください(本文 III をご覧ください)。
- ③ 『数字で見る交通権』への提案／執筆参加を歓迎します(本文 I をご覧ください)。

## 予告

- ① 中部関西部会の予定：次回の中部関西部会は、12 月初旬(1-2 日または 8-9 日)に富山 LRT の視察を中心に行う方向で計画中です、日程など詳細は次回のニューズレターでお知らせしますので、お心づもりください。
- ② 来年度大会・総会は「7 月 21-22 日 明治大学」の予定で折衝中です。

## I. 2006 年度研究会がおこなわれました

期日：2006 年 7 月 22 日(土)～7 月 23 日(日)

場所：同志社大学 室町／今出川キャンパス

参加者：92 名(会員 59 名，一般 33 名)

### 第 1 日目 13:30～18:00 (寒梅館 1 階ハーディーホール)

- ◆大会開会挨拶 土居靖範(交通権学会会長、立命館大学)
- ◆友誼団体祝辞 閔万基(韓国・緑色交通運動事務局長)
- ◆記念シンポジウム「都市交通の新たな潮流」
  - ・趣旨説明 日比野正己(長崎純心大学)
  - ・報告「人と環境にやさしい都市交通の形成－ソウルの経験」金敬喆(ソウル市政開発研究院)/(通訳)藤田崇義，[討論者 安部誠治]
  - ・報告「TDM 政策と LRT 導入のセットで、日本の都市交通の未来を切り開こう」土居靖範(立命館大学)，[討論者 青木真美]
  - ・事例報告「海外における LRT 導入事例について」小山徹(埼玉大学)
  - ・事例報告「JR 富山港線の LRT 化過程にみる成果と課題－沿線住民の運動を通じて－」酒井久雄(公共交通をよくする富山の会、富山市交通マスタープラン策定協議会)、岡本勝規(富

山商船高専)

- ◆懇親会 18:00～20:00 (寒梅館 1 階 Hamac de Paradis)

### ◇研究会(1 日目)における質問への回答(補足)

事例報告「JR 富山港線の LRT 化過程にみる成果と課題－沿線住民の運動を通じて－」に対してフロアから寄せられた質問について、報告者より回答の補足が寄せられています。この内容は、大会 2 日目には事務局に届いたのですが、会場では質問者がわかりませんでしたので、この場に掲載して回答とさせていただきます。

【富山ライトレールの利用実態について：6 月の金曜日五日間の平均利用者数は、同社調べによると 5,510 人。また 7 月 7 日一日の利用者数は同じく 5,780 人。(以上)】

〔編集担当者より：「富山県交通政策研究グループ」による乗降者数の詳細な調査報告が公開されています。URL は <http://www1.tcnet.ne.jp/kusunoki/koutuken/> です。〕

### 第 2 日目 9:00～16:30 (至誠館)

- ◆自由論題発表 9:00～12:15
  - ・「札幌地下鉄駅ホーム人身事故と安全柵整備の社会的費用の研究」高森衛，[討論者 日比野正己]
  - ・「規制緩和後の地方バス交通の方向性－九州・山口の特徴的事例を中心に－」前田善弘(九州大学大学院)，[討論者 福田晴仁]
  - ・「地方圏におけるバスの補助政策の現状」宮沢康則(埼玉県)、宇都宮浄人(日本銀行)、西田敬(都市再生機構)、中村正(日野自動車)、藤井憲男(ニコンシステム)、曾田英夫(あいおい損害保険)、小山徹(埼玉大学)，[討論者 森田優己]
  - ・「JR 福知山線事故 1 年後の到達点と課題」安部誠治(関西大学)，[討論者 桜井徹]
  - ・「地方鉄道の活性化に資する上下分離に関する考察」下村仁士(全国鉄道利用者会議)，[討論者 香川正俊]
  - ・「JR から在来線経営分離をめぐるスキームの変化と課題」岡本勝規(富山商船高専)、渡辺眞一、酒井久雄(公共交通をよくする富山の会)，[討論者 安藤陽]
- ◆総会 12:15～13:10  
本文 II をご覧ください。

◆記念企画『数字で見る交通権』—交通権学会 20 周年記念出版へむけて 14:10~16:30

- ・全体構想説明 上岡直見 (環境自治体会議)
- ・個別構想 安全性 曾田英夫 (あいおい損害保険)  
利便性 藤井憲男 (ニコンシステム)  
環境保全 上岡直見 (環境自治体会議)

## ■『数字で見る交通権』への提案／参加を歓迎します■

下記の内容構成に従って執筆を依頼していきますが、「取り上げるべきテーマやデータに関する意見・提案」、また「執筆への参加」を歓迎します。いずれも、上岡までご一報ください。

【『数字で見る交通権』の内容構成を予稿集より抜粋します。

特別寄稿：これまでの学会の論文や報告より、特に価値のあったものを推薦し、現時点における再評価を加えた論文 1～2 件  
特別寄稿：緑色交通より論文 1 件

総論：交通権の保障が、社会の持続性や市民の総合的な QOL に貢献することを定量的に評価する

1. 平等性：バリアフリー設備の設置状況、使う側の評価。外出ニーズがあったが、これまで自分の自由な意思による外出ができなかった人が、この 20 年間でどのくらい外出できるようになったか、数量的な把握がされているか。あるいは地域交通の崩壊でモビリティを失った人の数。バリアフリーの社会経済的評価。

2-1. 安全性 (交通事故)：交通事故の推移、増減要因を統計的手法で分析。歩行者・自転車利用者・運転者・同乗者、およびそれぞれの利用手段別について。道路設備や制度の変遷との可能性。交通事故の社会経済的評価。人命や健康の価値の国際比較など。

2-2. 安全性 (公共交通)：公共交通における利用者および交通労働者の安全性。2004 年大会にて報告の地下鉄ホーム事故なども注目される。災害時の交通を含む。

3. 利便性：アクセシビリティ、移動抵抗などの定量的・マクロ的推移と、一方では定点観測的なデータ。一般化費用の問題？「混雑度」なども指標か？

4. 文化性：海外旅行者数をふくめ、国民の余暇・レジャー活動の動向など。

5. 環境保全：交通に起因する環境負荷のここ 20 年の数値的動向と、要因の分析。交通政策と環境負荷の数量的関係の把握。

6. 整合性：都市のあり方と、交通体系、環境負荷との関連。マクロ的あるいは経時的な変化。

7. 国際性：海外交通政策の動向と評価

7-1. 国際性 (各論)：海外事例紹介とその評価、数例。

8-1. 行政の責務：交通に関する規制緩和の動向と、社会便益 (損失?) の定量的評価。「施策数」の記述ではなく、経済価値

での国民的便益・損失の評価。日本への適用性と政策的インプリケーション。交通に関する規制緩和の経時的動向、或いは自治体等の財政負担、行政の課題など。

8-2. 行政の責務 (事例)：国民 (住民) のモビリティを確保する上で注目される行政の取り組み。

9. 交通事業者の責務：分割民営を中心とした一連の民営化・規制緩和の条件下における交通事業者の責務とは？

10. 国民の責務：交通に関する市民運動の参画、行政・事業者・市民のパートナーシップ。

11. 交通基本法の現状：検討中

12-1. 総合的な評価 (理論編)：社会的費用・便益分析の進展

12-2. 総合的な評価 (海外事例編)：上記までの理念の複数を統合し、交通権に関する指標化をおこなっている海外の報告。

12-3. 総合的な評価 (国内事例編)：上記と同じで国内の報告例。

資料編 交通政策総合年表：国の総合政策、税制などと並列した各分野におけるトピックスの年表】

## ■予稿集の残部をお願ひします■

大会の予稿集には残部が若干あります。大会に出席されなかった会員で、ご希望の方には 1 人 1 部を送料実費 (340 円) でおわけします。なお、会員外の方や会員 (すでに 1 冊お持ちの方) で 2 冊目以降をご希望の方には一冊 1000 円で販売します。事務局までご連絡ください。

連絡先：交通権学会事務局

〒525-8577 草津市野路東 1-1-1 立命館大学経営学部

近藤宏一研究室気付

e-mail : kondok@ba.ritsumei.ac.jp

## II. 2006 年度総会がおこなわれました

期日：2006 年 7 月 23 日 (日) 12:15~13:10

場所：同志社大学 今出川キャンパス

出席者数 47 名、委任状 72 名 (合計 119 名)

下記の報告・計画について承認されました。

### 1. 2005 年度事業報告 (2005.07.01~2006.06.30)

(1) 全体実績報告

以下の活動を行ないました。

・第 20 回研究大会・総会の開催 (2005 年 7 月 23 日~24 日; 富山市・とやま観光物産センター)

・学会誌『交通権』第 23 号発行 (2006 年 7 月 1 日)

・ニューズレター『トランスポート 21』第 22 号~第 24 号の発行 (2005 年 8 月 15 日, 2006 年 2 月 1 日, 2006 年 4 月 7 日)

- ・研究大会・総会の案内状の発送（2006年6月19日）

## (2) 部会開催実績報告

- ・関東部会（2005年12月23日 日本大学新宿サテライトキャンパス）
- ・中部関西部会（2006年3月25日 立命館大学びわこ草津キャンパス）

## (3) 理事会開催実績報告

- ・第1回 2005年7月24日（総会后）
- ・第2回 2005年11月（もちまわり）
- ・第3回 2006年2月（もちまわり）

## 2. 入退会者の承認（敬称略）

- ・新入会員：碓井恒良，谷川真，堀内重人，前田義弘，三浦勤，宮本直樹（以上5名）
  - ・本人の申請に基づく退会会員：5名
  - ・会費未納退会者については，後日理事会にて確認します。
- なお，現在の会員数は，正会員207，学生会員11，賛助会員8，名誉会員3 となっています。

## 3. 名誉会員の推薦と承認

- ・原田勝正殿，山口孝殿 を理事会から推薦し，承認されました（ご本人の了承があれば，名誉会員となっていただきます）。

## 4. 2005年度決算報告

- ・収入では，滞納されていた会費の払い込みが進んだため，予算金額より決算金額が相当大きい結果となりました。
- ・支出では，支払い時期が来ていない費目もあって，予算金額より決算金額が小さくなりました。
- ・結果として，繰越金が大きくなっています。

## 5. 研究奨励助成報告

- ・2005年度：応募が無いため，助成もありませんでした。

## 6. 国際活動報告

- ・韓国緑色交通運動との交流：日本の交通権学会が韓国を訪問する番でしたが，先方事情により当年度の交流はありませんでした。

## 7. 創立20周年事業について

- ・『数字で見る交通権』の刊行：準備中です。
- ・「交通基本法シンポジウム（仮称）」の開催：当該法律制定が滞っているため，シンポジウムは中止とし，これに代わる企画

を検討します。

- ・学会誌特集号の発行：通常の会誌（24号）の一部に特集頁を設定します。

## 8. 「交通権学会社会貢献賞」について

- ・委員会を設置して，募集・審査をおこないます。（本文Ⅲをご覧ください。）

## 9. 日本学術会議参加手続きについて

- ・当会からの申込書が学術会議事務局で停められていたことの調査を継続します。また，学術会議に関わる制度が変更になっていることへの対応を検討します。

## 10. 2006年度事業計画（2006.07.01～2007.06.30）

### (1) 研究関連

- ・第21回研究大会・総会を開催します（2006年7月23日～24日；同志社大学）。
- ・第22回研究大会・総会の準備をします（2007年7月21～22日；明治大学（折衝中））。
- ・会誌『交通権』第24号（創立20周年記念号）を発行します。
- ・各ブロックで部会活動を推進します。

### (2) 2006年度研究奨励基金の授与

本年度応募者について審査の結果「前田義弘殿（九州大学大学院）；規制緩和後の地域バス交通の方向性—九州・沖縄・山口の事例を中心に—」へ贈呈します。

### (3) 社会貢献賞の公募要領の改正と掲示：理事会で決定後，ホームページの内容を変更します。

### (4) 創立20周年記念企画

- ・『数字で見る交通権』の刊行企画を継続し，2007年中の刊行をめざします。
- ・学会誌記念号を刊行します。通常号の記事内容に加えて，記念にふさわしい論文を掲載します。論文の企画は編集委員会で検討します。

- ・その他，創立20周年を記念する企画を検討します。

### (5) その他

- ・ニューズレター『トランスポート21』を発行します。
  - ・学会公式サイト（ホームページ）の充実をはかります。
- なお，学会公式メールアドレスは下記です。理事会へのメールはここへお寄せください。

kotsuken@dk9.so-net.ne.jp

## 11. 2006 年度予算案

・会費収入については、2005 年度の決算金額が大きかった理由が一過性のものであるため、予算金額としては例年と同様の金額にとどめます。

・支出については、20 周年記念事業である『数字で見る交通権』刊行の費用（の一部）として、特別事業費を多めに計上します。

交通権学会 2005 年度事業会計決算  
(2005 年 7 月 1 日～2006 年 6 月 31 日)

【収入（単位：円）】			
摘要	予算額	決算額	増減
前期繰越金	704,548	704,548	0
会費	700,000	1,031,000	331,000
寄付金	0	0	0
会誌売上	20,000	24,500	4,500
受取利息	30	0	-30
雑収入	0	16,060	16,060
合計	1,424,578	1,776,108	351,530

【支出（単位：円）】			
摘要	予算額	決算額	増減
大会費	200,000	170,890	-29,110
通信費	100,000	99,204	-796
印刷費	25,000	14,117	-10,883
会誌制作費	600,000	400,819	-199,181 注 1
特別事業費	100,000	0	-100,000
部会活動費	15,000	0	-15,000
国際交流積立金	100,000	100,000	0
事務費	75,000	61,145	-13,855
予備費	0	0	0
一時立替金	0	15,225	15,225 注 2
次期繰越金	209,578	914,708	705,130
合計	1,424,578	1,776,108	351,530

注 1：23号の制作費が06年度の支払のため

注 2：郵便局の事務処理ミス、後日返却される

## 2005 年度国際交流特別会計決算

【収入（単位：円）】			
摘要	予算額	決算額	増減
前期繰越金	20,999	20,999	0
今期繰入金	100,000	100,000	0
受取利息	0	0	0
合計	120,999	120,999	0

【支出（単位：円）】			
摘要	予算額	決算額	増減
国際交流費	100,000	0	-100,000 注 3
予備費	0	0	0
次期繰越金	20,999	120,999	100,000
合計	120,999	120,999	0

注 3：2006 年度に支出される

## 2005 年度研究奨励基金特別会計決算

【収入（単位：円）】			
摘要	予算額	決算額	増減
前期繰越金	820,029	820,029	0
受取利息	0	0	0
合計	820,029	820,029	0

【支出（単位：円）】			
摘要	予算額	決算額	増減
次期支給額	200,000	0	-200,000
次期繰越金	620,029	820,029	200,000
合計	820,029	820,029	0

## 2005 年度大会収支計算書

【収入（単位：円）】	
摘要	金額
参加費	99,000
懇親会費	297,000
補助金	100,500
学会会計より	119,760
合計	616,260

【支出（単位：円）】	
摘要	金額
大会事務費	1,612
大会会議費	20,000
大会会場費	195,260
懇親会費	324,208
予稿印刷費	75,180
合計	616,260

## 2005 年度期末現金計算書

各会計残高（次期繰越金）	
摘要	金額
事業会計	914,708
国際交流会計	120,999
研究奨励会計	820,029
合計	1,855,736

残高（場所別）	
摘要	金額
郵便貯金口座	51,006
郵便振替口座	2,071,515
現金	4,318
未払い立替金	-271,103
合計	1,855,736

## 交通権学会 2006 年度事業会計予算（2006 年 7 月 1 日～2007 年 6 月 31 日）

【収入（単位：円）】				
摘要	2005 年度予算額	2005 年度決算額	2006 年度予算	対前年予算増減
前期繰越金	704,548	704,548	914,708	210,160
会費	700,000	1,031,000	700,000	0
寄付金	0	0	0	0
会誌売上	20,000	24,500	20,000	0
受取利息	30	0	50	20
雑収入	0	16,060	0	0
立替金返還			15,225	15,225
合計	1,424,578	1,424,578	1,649,983	225,405

【支出（単位：円）】				
摘要	2005 年度予算額	2005 年度決算額	2006 年度予算	対前年予算増減
大会費	200,000	170,890	160,000	-40,000
通信費	100,000	99,204	100,000	0
印刷費	25,000	14,117	20,000	-5,000
会誌制作費	600,000	400,819	700,000	100,000
特別事業費	100,000	0	300,000	200,000
部会活動費	15,000	0	15,000	0
国際交流積立金	100,000	100,000	100,000	0
事務費	75,000	61,145	70,000	-5,000
予備費	0	0	0	0
一時立替金	0	15,225	0	0
次期繰越金	209,578	914,708	184,983	-24,595
合計	1,424,578	1,776,108	1,649,983	225,405

## 2006 年度国際交流特別会計予算

【収入（単位：円）】				
摘要	2005 年度予算額	2005 年度決算額	2006 年度予算	対前年予算増減
前期繰越金	20,999	20,999	120,999	100,000
今期繰入金	100,000	100,000	100,000	0
受取利息	0	0	0	0
合計	120,999	120,999	220,999	100,000

【支出（単位：円）】				
摘要	2005 年度予算額	2005 年度決算額	2006 年度予算	対前年予算増減
国際交流費	100,000	0	200,000	100,000
予備費	0	0	0	0
次期繰越金	20,999	120,999	20,999	0
合計	120,999	120,999	220,999	100,000

## 2006年度研究奨励基金特別会計予算

【収入（単位：円）】				
摘要	2005年度予算額	2005年度決算額	2006年度予算	対前年予算増減
前期繰越金	820,029	820,029	820,029	0
受取利息	0	0	0	0
合計	820,029	820,029	820,029	0

【支出（単位：円）】				
摘要	2005年度予算額	2005年度決算額	2006年度予算	対前年予算増減
次期支給額	200,000	0	200,000	0
次期繰越金	620,029	820,029	620,029	0
合計	820,029	820,029	820,029	0

## III. 理事会からのお知らせ

## 1. 理事の役割分担

大会二日目に開催された理事会において、2006年度の理事の役割分担を下記のように決定しました。

- ・会誌編集：安藤陽(長)、青木俊昭、国府田諭(補佐)
- ・20周年記念特別号企画については、土居靖範、上岡直見、日比野正己、安部誠治、岡崎勝彦を委員とする
- ・大会プログラム：日比野正己(長)、青木真美、岡本勝規、曾田英夫、森田優己、もりすぐる(2006年度大会)、香川正俊(2007年度大会)
- ・研究企画：上岡直見
- ・国際交流：安部誠治
- ・関東部会：安藤陽、曾田英夫、藤井憲男
- ・中部関西部会：榎田基明、森田優己
- ・九州部会：香川正俊
- ・研究奨励助成審査：日比野正己(長)、土居靖範、宇都宮浄人、岡崎勝彦、小山徹
- ・社会貢献賞審査：安部誠治(長)、上岡直見、青木真美
- ・日本学術会議：桜井徹
- ・ホームページ：榎田基明
- ・ニューズレター：藤井憲男
- ・事務局・会計・会員管理：近藤宏一

## 2. 交通権学会社会貢献賞について

本賞は、交通権の普及と定着のため活動を続けている本学会として、個人または団体による交通権の前進のために有用な社会的実践を顕彰するものです(2005年7月設置)。

## 【対象】

交通権実現の観点から有益と認められる社会的実践を行った国内外の個人又は団体。

上記の社会的実践とは、推薦・自薦の時点から遡っておおむね3年以内に行われたものをいう。

## 【候補の推薦】

本会会員は、本賞にふさわしいと思われる個人又は団体を推薦することができます。また、本賞の受賞を希望する国内外の個人又は団体の代表は自薦することができます。

推薦又は自薦期間は、毎年8月1日から12月末日です。この期間中に推薦・自薦のあったものについて審査し、翌年7月の年次総会場で受賞者(又は受賞団体)を発表します。

応募希望者は所定の用紙に必要事項を記入し、交通権学会事務局宛に郵送してください。

不明な点があれば事務局までお問い合わせ下さい。

(推薦・自薦のための用紙は本学会のホームページからダウンロードできます。)

## 【選考・授与】

選考は学会内に設置した選考委員会が行い、各年度の研究大会・総会の会場において授与します。

## 【その他】

授与された個人又は団体は、研究大会の場及び会誌「交通権」誌上において、表彰対象となった事業について報告する義務が生じます。

## IV. 投稿

## 携帯電話と交通権

曾田英夫

携帯電話は広く普及し、今や必需品となっている。しかし、それなりの「マナー」を守る事が要求されている。

電車に乗れば、車掌が携帯電話に対する「マナー」を車内放送する。「優先席付近では電源をお切りください」と告げる。優先席付近の吊り革の色も変えてさらに注意を喚起している。しかし、このような交通機関の努力をまったく無視して、優先席付近で電源を切らぬ者、優先席に座りながら携帯電話で通話している、言語道断とも言える者も見かける。そのような行為が人の命に関わるということを知れば、今後は皆無になると思うのだが…。

ある日の夕方、帰宅するために始発駅から電車に乗れば、たまたま座ることができた。発車を待っていると、男の声がした。優先席に座っているマスクをした初老の男性が、斜め前に座っていた人に「自分はペースメーカーを入れているので、携帯を切って欲しい」という趣旨のことを伝えた。残念ながら言われている人は自分の席からは見えなかったもので、男性か女性か、若者か高齢者かは分からなかった。

5分後ぐらいになって、発車間際となった時、再びその人の声が聞こえ、「携帯を切って欲しい」旨の要望を伝えていた。どうも前に言った言葉が無視したようである。二度目となれば、仕方無かったのか、漸く切ったようである。

電車は発車した。しかし、それからこの人の息遣いが荒くなってきた。「ハーハー」という苦しそうな息遣いが私にも伝わって来る。しかも、時間が経つほどにますますひどくなっていくようであった。

それに危機を感じて、周囲に立っていた人が非常通報のボタンを押して、車掌を呼び出した。本人も車掌に伝えて乗ったと言っていたので知っていたのだろう。すぐに若い車掌がやってきて、本人に「大丈夫ですか」と聞いている。本人は「ニトロを飲んだので心配ない」旨を答えていた。車掌は乗客に向かって「携帯の電源を切って欲しい」旨を伝えて去っていった。

しばしらく本人は「ハーハー」と荒い息遣いを続けていた。電車は走っている。急行で発車後10分位は停車しない。さらに「ハーハー」という荒い息遣いは続いた。やがて最初の駅に到着した。本人は携帯を切らなかった人に向かって「あなたが電源を切ればこのようなことにならなかったのだ」という意味の言葉を残して下車した。

駅のホームには駅長か助役ぐらいの人が迎えにきていたが、本人はホームにしゃがみ込んだままでずっと動かずにいた。発車までみていたが、立ち上がることはなかった。

その後はどうなったかは知るよしもないが、携帯電話が命を取ることもあるのだということを目の当たりに見てしまい、実際は怖かった。

電車に乗る人は各人が公共交通に乗る権利—交通権—を持っている。実は交通機関が車内放送をするのは乗客の交通権を守っていると思う。すると乗客は規則を守ってこそ他の乗客の交通権を守ることができる。すなわち、電車内の携帯電話のマナーを守ることは他人の交通権を守ることに他ならない。それを守られないとなると、交通権が阻害される。その結果、携帯電話が命までも奪ってしまうことになりかねない。このような事態を見ると交通機関が何故あのように携帯電話に車内放送で強調し、吊り革までも変えるのが良くわかった気がする。

(了)

## ■ニューズレター『トランスポート 21』の原稿を募集しています■

下記にしたがって、ふるってご投稿ください。

- ・内容：交通権に関わる身近なニュース、ご意見等
- ・締切：特に設けません。
- ・字数：図表を含めて2,000字程度

・送り先：

336-0022 さいたま市南区白幡 3-1-9, 2-607 藤井憲男

e-mail: family.fujii@nifty.com

・入稿方法：

① Word および/または Excel で作成されたファイルを、e-mail の添付ファイルとして、上記藤井の e-mail アドレスへお送りください。この時、メールのタイトルに「トランスポート 21 原稿」の文字を明記してください（藤井が承知していない方からのメールを迷惑メールとして排除することの防止です）。

② なお、念のため、「打ち出し原稿」を上記送り先へ郵送してください。

・ご注意：

① 内容によってはレフリー（相当）に依頼して掲載可否の検討をおこないます。その結果により内容の訂正をいただく、または、掲載が出来ない場合があります。なお、レフリーにより「掲載可」となった後の修正はできません（明白な誤字訂正は除く）。

② 掲載にあたって、意味内容の変更は要しなくても、表現を変更した方が良く判断される場合は、編集担当理事および事務局長の判断により、これを変更する場合があります。

## ■情報ファイル■

各地／各種団体による行事予定、新刊資料、その他の情報は、下記に掲載されています。

<http://homepage3.nifty.com/sustran-japan/datafile/events.htm>

## トランスポート 21 第 25 号

発行日：2006年8月25日

発行者：交通権学会事務局

〒525-8577 草津市野路東 1-1-1 立命館大学経営学部

近藤宏一研究室気付

電話／ファクシミリ：077-561-4691（直通）

e-mail: kondok@ba.ritsumeit.ac.jp

編集担当者：藤井憲男、近藤宏一

交通権学会ホームページ：

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/kotsuken-gakkai/>